

令和6年度自己評価結果公表シート

作成 幼稚園型認定こども園

太平寺幼稚園

1、本園の教育目標

- ◎未来社会を生き抜く心身共に豊かな人間性の基礎を養い基本的生活習慣を身につける。
- ・楽しい集団生活の中で一人ひとりの健全な心身の基礎を培う
 - ・基本的生活習慣・態度を育て、豊かな心情や思考力を培い、意欲や思いやりのある子どもを育てる。

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

- より良い幼児教育を目指すために教職員間で次のことについて共通理解を図る。
- ・子どもの安心安全を図る。
 - ・保育環境を豊かにする。
 - ・特別支援教育の充実を図る。
 - ・ICT化により保育の質の向上を図る。
 - ・乳幼児保育への理解を深める。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
子どもの安心安全を図る。	今年度も子どもの心身共に安全が守られるように安全への意識を高めてきた。園児に対して交通安全教室や避難訓練、防災や防犯、プライベートゾーンのお話をを行った。又、子どもの権利条約の勉強会や不適切保育のチェックマニュアル、ハラスメント防止の園内研修会などを行った。今後も防災力を高め、人権教育を推進していくために、一人ひとりが問題意識を持って、自主的に動くことが出来るように組織運営を行いたい。
保育環境を豊かにする。	子どもたちが環境に主体的に関わり、遊びや生活が深まるように、環境構成を行って来た。子どもの姿を記録することを通して、育ちを読み取り、遊びの重要性や保育の大切さを実感した。そのことにより、保育教諭の責任感や専門性が深まった。今後も園内研修等を通して、子どもの姿や保育教諭の視点を共有し、さらに保育環境を豊かにしたい。
特別支援教育の充実を図る。	子どもの困り感を理解し、子どもに寄り添った保育が出来る様に、特別支援園内委員会や研修の充実を図った。一人ひとりを大切にしたい保育を目指しており、その中で園の子どもたちが互いの良い所に着目して励まし合う姿が見られるようになった。今後も子どもの育ちを肯定的に捉える保育を行いたい。さらに、保護者支援がしっかりと出来る様に人材育成に力を入れたい。
ICT化により、保育の質の向上を図る。	子どもの位置情報を把握するICTシステムのミマモルメや業務支援システムのコードモンを導入し、子どもの安全を図ることや業

	務の効率化、保育の見える化などを進めてきた。ICT 化を進める中で日常の子どもの姿や育ちを保護者の方と共有した。親子の会話が増え、園の職員と保護者の信頼関係が深まるなどの良い効果が見られた。今後も子どもの安心安全やより質の高い保育に繋がるように活用していきたい。
乳幼児保育への理解を深める。	0歳児保育が昨年度より始まった。乳児から子どもの主体性を大切にする保育を行いたい。低年齢児以外の職員も乳児保育への理解を深め、子どもの育ちつつあるところに着目出来るように乳児の発達に関する園内研修を行った。 また、子どもに合わせた保育環境の整備や保育計画、食育計画などの見直しを行った。 今後も0から5歳児の育ちを繋げ、子どもの発達を促すために園内研修を充実させ、乳児保育の質の向上を図りたい。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、全教職員で問題意識を持ちながら取り組む姿が見られる。 計画は達成していると評価できる。
--

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
子どもの安全を図る。	危機管理マニュアルや学校安全計画を見直す。園内研修等を通して、安全に対する意識の向上を図り、職員一人ひとりが自分事として捉え、自主的に動くことが出来るようにする。子どもの安心安全が守られるように人権教育を推進する。
協働的な組織運営を行い、教育の質の向上を図る。	園内研修を充実させ、子どもの姿から園の子どもたちの課題を読み取り、根っこの課題を共有することにより、組織的に教育の質を高める。
保育環境を豊かにする。	子どもが興味関心を持って、主体的に関わり、学びを深めていく保育環境を考察し、充実させる。
特別支援教育の充実を図る。	子どもの発達への理解を深めると共に誰もが充実した日々を過ごすために協働しながら特別支援教育の充実を図る。
ICT の活用により、保育の質の向上を図る。	ドキュメンテーションやポートフォリオを充実させて子どもの育ちへの理解を深め、保育の質の向上と業務の効率化を図る。
0～2 歳児保育の充実を図る。	昨年に引き続き、0から5歳児の育ちを繋げるために園内研修を充実させると共に、その土台となる乳児保育の質を向上させる。

6、学校関係者の評価

重点目標に沿ってそれぞれ年間を通して従事した取り組みを展開し、目標を達成している。子どもたちの姿を保育教諭がよく理解し、環境設定を工夫し、楽しみながら保育を充実させている。より良い保育には保育教諭の高い技量や研鑽が必要である。今後も一層の研鑽を期待したい。

少子化が進む中、質の高い保育へのニーズはますます大きくなっていくと予想される。協働的な組織運営を行い、質の高い保育が出来る園の風土を醸成したい。

7、財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。